



YOKOHAMA
MINATO MIRAI
HALL

横浜みなとみらいホール

ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム 2025年度 第21期インターン 募集要項



©平 舘平

1998年の開館以来、積極的にパイプオルガン事業を展開している横浜みなとみらいホールでは、ホールオルガニストをめざす方々に向けて「ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」を実施しています。このプログラムは、ホールオルガニストに必要な資質を習得するための、若いオルガニストを対象とした研修制度で、初代ホールオルガニスト 三浦はつみの指導により2002年から実施してきました。

2023年度より第2代ホールオルガニスト近藤 岳が就任しプログラムを継承。2025年度は第21期インターン生を募集いたします。

■研修プログラムの内容

(1)オルガン公演・ワークショップなどの事業の企画運営に参加

主に夏休みに行う子ども向け事業およびオルガン普及・紹介に関わるプログラムの運営に、ホールオルガニストの近藤 岳、ホールスタッフとともに参加していただきます。

聴衆との接点を得られる事業の現場において、演奏家としてだけでなく、コーディネーターやファシリテーターとしての役割を、実際に体験しながら学ぶことができます。



オルガンワークショップで
参加者の演奏をサポートします

(2)オルガン保守について習得

コンサートホールに設置されているパイプオルガンを最良の状態に保つために、ホールスタッフ、調律師、オルガンビルダーとのコミュニケーションを取りながら、楽器の状態を確認・把握する日常業務など、「ホールオルガニスト」として求められる役割を学びます。



「構造研修」では、調律師から
パイプオルガン内部の構造を学びます

(3)楽器の構造について学習

楽器の構造や調律方法について、「構造研修」や公演時の調律補助、アニュアル・メンテナンスなどを通して理解を深めます。

(4)オルガン利用者への操作説明方法を習得

オルガン利用者をサポートするための知識や心構えを、実際の現場で研修し、国内や海外からの演奏家に対し、パイプオルガンの操作法や特徴を効果的に説明できるスキルを習得します。

(5)オルガンやホールに関する広報活動への参画

ホールスタッフの一員として、オルガンのPRに関わる広報業務も担っていただきます。コンサートや子ども向け事業でのMC、来場者へのオルガン紹介など、対象に対して伝わる話し方をプロから学ぶ「MC研修」を実施。さらに、ホール公式ウェブサイトのコラム執筆やSNS等から活動の様子の発信、ラジオやテレビなどメディアへの出演をお願いすることもあります。



「MC研修」では、司会のプロを講師に
迎えホールで実践しながら学びます

(6)公共ホールの運営について学習

公共施設としてのホールのあり方を学びます。併せて、公共ホールの一員としての視点に立ち、オルガンの活用を考えます。

(7)ホールオルガニスト近藤 岳による研修

様々な作品演奏のみならず、オルガンの作・編曲について、レッスン(月1回程度)を通して取り組み、コンサートホールのオルガンならではの音楽づくりを学びます。

(8)「オルガン・1ドルコンサート」に出演(研修修了時)

2026年度の「オルガン・1ドルコンサート」で、インターンシップ・プログラム修了演奏会として演奏していただきます。(4月の「オルガン・1ドルコンサート」への出演を予定)

(9)そのほか 活動の機会を提供

当館でのオルガン事業や、オルガニストを必要とされる貸館公演の利用者に対し、インターン生を積極的に紹介しています。

ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム第21 期研修内容(予定)

2025 年 2 月現在

ホールオルガニストは、自らがコンサート等で演奏することはもちろん、オルガン事業の企画立案に参画したり、お客様の前に立ち楽器や作品についてわかりやすく説明したり、ホールのパイプオルガンの魅力を幅広く発信する役割を担います。

また、常に「メンテナンス(弾き込み)」を行うことで、楽器を最良の状態に保つとともに、初めてこのオルガンを演奏するオルガニストがスムーズに演奏できるようフォローも行います。

研修分野	研修項目	日程・時期	内容
オリエンテーション	ガイダンス	5 月	1.カリキュラムについて 2.楽器を知る
楽器管理	メンテナンス	随時	1.管の調律状況をチェック 2.鍵盤の高さや戻り方をチェック 3.アクセサリー(仕掛け)のチェック 4.空気漏れやノイズのチェック 5.トラブルが起きたときの対処方法
	調律見学・補助	1ドルほか調律時	調律時に助手をおこなう場合の注意点
	オルガン構造研修	時期未定	オルガン内部にて仕組みを知る。オルガンの調律について学ぶ。
	利用管理	随時	利用記録の残し方
	利用者への説明		オルガニストへの楽器使用(仕様)説明(日本語、外国語とも)
	アニュアル・メンテナンス見学	アニュアル・メンテナンス時	ビルダーによる年次メンテナンス時に、保守点検を実地で学ぶ
広報活動	来場者への説明・デモンストレーション	下半期	一般の方々にむけての楽器紹介(デモンストレーション)
	PR 活動	随時	新聞雑誌放送など、ホールやオルガンの PR のための取材対応、ブログ執筆
事業の企画運営への参加(予定)	パイプオルガンワークショップ	8 月初旬実施予定	1.事業内容の把握、演奏・デモンストレーション部分での役割確認 2.オルガン体験の子どもたちの指導 3.オルガン説明・演奏 等
	10 代のためのパイプオルガン・レッスン	下半期(秋以降)	講師補佐(受講生の自主練習対応等)
事業運営(MC)の実習	MC 研修	時期未定	オルガン事業で必要になる演奏間でのMCや司会についての研修
ホール運営	ホール貸出全般(楽器貸出を含む)	時期未定	ホール運営についてホール職員の説明を受け、公共文化施設の在り方を学ぶ。
出演	心の教育ふれあいコンサート	2025年 9-11月 開催予定	市内小学生対象 音楽鑑賞公演での神奈川フィルとの共演、オルガン独奏および楽器紹介
	2026年度 1ドルコンサート	2026年4月(予定) 出演	インターンシップ修了演奏会
その他	オルガン委員会出席	2026年3月以降	年1回開催するオルガン委員会(委員の先生に対し、事業報告および次年度事業の説明を行い、アドバイスを受ける)に出席。研修の報告も行う。

■研修期間

2025年5月～2026年4月末日を研修期間とします。
毎月、5日～10日程度の研修日程となります。

■募集人員

2名まで(但し、選考結果により欠員となる場合もございます。)

■対 象

ホールオルガニストをめざし、パイプオルガンを専門的に勉強している方。
年齢、国籍は不問。ただし業務に必要な日本語能力を有すること。

■待 遇

交通費のみ支給

※研修1日につき往復2,000円を超過する場合、超過分は自己負担いただきます。

※毎月ホールが定める研修日数分を支給の上限とし、超過分は自己負担いただきます。

※研修を経て依頼する業務、依頼演奏については別途報酬を支給します。

■応募方法

下記を郵送で提出してください。(提出資料は返却いたしません)

① 応募者本人のパイプオルガン演奏による録音データ

CDデータ、もしくは「限定公開」に設定したYouTubeへのアップロードでご提出ください。

CDの場合は、通常のCDプレーヤーで再生できるCD、CD-Rのいずれかを使用のこと。

YouTubeへのアップロードの場合は、URLをメール(mmh_organ@yaf.or.jp)にてご提出ください。

※YouTubeにアップロードする際は、その楽曲が、日本及び居住国の法律・規定上「演奏」許諾が得られるものであることを、事前に確認してください。

当方はアップロードに伴う著作権上の一切の責任を負いかねます。

※6ヶ月以内の録音。J.S.バッハと、ロマン派以降のパイプオルガンのためのオリジナル作品の中からそれぞれ1曲を収録(2曲の演奏時間の合計が30分以内)すること。録音は雑音などを含まない高品質なものをご提出ください。

※録音物に、演奏した「場所」「オルガン」「日付」を明記すること。

※J.S.バッハとロマン派以降の作品は、演奏するオルガンが異なっても構いません。

② 履歴書(市販の履歴書に写真貼付要/e-mailアドレスを必ず明記のこと)

③ 音楽に関する経歴書(形式自由/演奏歴、師事歴などを記入すること)

④ 指導教授など、音楽の専門家による推薦状

⑤ 自己アピール(字数は問いません)

郵送先: 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6

横浜みなとみらいホール事業企画グループ「オルガン I. P.」担当

締 切: 2025年4月4日(金) 必着

※提出された個人情報は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団のプライバシーポリシーおよび同個人情報取扱要綱に基づき適切に取り扱い、本事業の実施及び選考のみを目的として利用いたします。

■選抜方法

一次・二次ともに、ホールオルガニストおよびホール職員が審査・面談を行います。

① 一次審査:書類と音源審査

・応募書類および音源をもとに審査いたします。結果は4月9日までにメールで連絡いたします。

② 二次審査: 4月13日(日)実施予定 ※都合がつかない方は応相談

・一次審査通過者は面談と実技試験を行い、採用を決定いたします。

■お問合せ

横浜みなとみらいホール事業企画グループ 担当:三浦・絹見

TEL:045-682-2020 / FAX:045-682-2023

ホールオルガニストの紹介

■近藤 岳

オルガニスト、作・編曲家。

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学別科オルガン科修了。同大学大学院修士課程音楽研究科(オルガン)修了。2006年文化庁新進芸術家海外研修員としてフランス(パリ)に留学。2004年7月ミューザ川崎シンフォニーホールのオープン当初から18年3月末までホールオルガニストを務めた。

現在、東京藝術大学非常勤講師(オルガン)、および国立音楽大学非常勤講師(作曲理論)。一社)日本オルガニスト協会会員。2022年4月より横浜みなとみらいホール第2代ホールオルガニスト。



Photo:藤本史昭

ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム修了者

[2002 年度(第1期) ~ 2023年度(第19期)]

これまでに本プログラムを修了し、各方面で活躍しているオルガニストの方々をご紹介します。

第1期 浅井 美紀 (あさい みき) 東京藝術大学卒業、同大学院修了。安宅賞、アカンサス音楽賞受賞。これまでに東京藝術大学助手、青山学院高等部講師を歴任。現在、青山学院高等部オルガニスト、水戸芸術館主催「幼児のためのパイプオルガン見学会」オルガニスト。	第1期 渋澤 久美 (しぶさわ くみ) フェリス女学院大学音楽学部器楽学科卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。2006 年より盛岡市民文化ホールオルガニスト。コンサートの企画やオルガン講座の講師などを担当し、オルガン音楽の普及と発展に努めている。聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂オルガニストも務める。	第2期 小島 弥寧子 (こじま みねこ) 玉川大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。フェリス女学院大学ディプロマコース修了。国内外で演奏活動を行ない、スペインのオルガン音楽研究をライフワークとする。2020 年に初の CD『星月夜』(朝日新聞特選盤、『レコード芸術』準特選盤)をリリース。武蔵野大学非常勤講師。
第2期 小高 園里子 (こたか えりこ) スイス国立ジュネーヴ音楽院を1等賞及びジュネーヴの町より特別賞を得て卒業。スイス、フランスの国際オルガンコンクールに入選。国内外で演奏活動と教会オルガニストを務める。ヤマハ横浜クラシックオルガン講師。	第3期 飯塚 美奈 (いづか みな) 秋田聖霊女子短期大学音楽科、エリザベト音楽大学パイプオルガンコース卒業。その後、スイス・ジュネーヴ音楽院に留学、スイス、フランスを中心にマスタークラスなどに参加し研鑽を積む。	第4期 浅尾 直子 (あさお なおこ) 洗足学園音楽大学卒業、エリザベト音楽大学大学院修了。ボストン・ニューイングランド音楽院留学。現在、カトリック田園調布教会オルガニスト、ヤマハミュージックアカデミー銀座アネックスおよびアトリエバロックオルガン教室講師。
第4期 飯沼 彩 (いぬま あや) 武蔵野音楽大学、リユーベック音楽大学を経て、シュトゥットガルト音楽大学大学院ソリストコースを卒業、ドイツ国家演奏家資格を取得。日本基督教団長原教会オルガニスト。プリンシパル・オルガン教室主宰。	第5期 野田 美香 (のだ みか) 武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程修了。佐渡裕&シエナ・ウインド・オーケストラによる CD『ディズニー・オン・ブラス』にゲストとして参加。現在、昭和音楽大学非常勤講師、トート音楽院渋谷講師、フェリス音楽教室講師。立正佼成会大聖堂オルガニスト。	第5期 柳澤 文子 (やなぎさわ あやこ) 東京藝術大学卒業、同大学院修了。スウェーデン国立ピテオ音楽大学ソリスト科修了。2003 年度文化庁芸術家在外研修員。スイス・ルツェルン市「0.メシアン・J.S. バッハ国際オルガンコンクール」第1位。日本キリスト教会湘南教会、日本バプテスト同盟霞ヶ丘教会オルガニスト。
第6期 石丸 由佳 (いしまる ゆか) 東京藝術大学卒業、同大学院修了。デンマーク王立音楽院、ドイツ国立シュトゥットガルト音楽大学にて国家演奏家資格取得。シャルトル国際オルガンコンクール優勝、併せて J. アラン賞受賞。2024 年 3 月まで新潟市民芸術文化会館リゅーとびあ専属オルガニスト。現在、所沢市民文化センターミューズ・ホールオルガニスト。	第7期 春日 朋子 (かすが ともこ) 東京藝術大学器楽科オルガン専攻卒業、同大学院修士課程修了。トゥールーズ国立高等音楽院を満場一致の一等賞を得て修了。ソロ、アンサンブル、通奏低音や伴奏などの演奏活動を行いながら、後進の指導にあたる。北陸学院中学・高等学校オルガニスト、金沢長町教会オルガニスト。	第8期 北澤 友佳 (きたざわ ゆか) 玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科オルガン専攻卒業。武蔵野音楽大学大学院修士課程修了。フェリス女学院大学ディプロマコース修了。「第26 回白川・イタリアオルガン音楽アカデミー」にて白川賞受賞。
第9期 小清水 桃子 (こしみず ももこ) フェリス女学院大学音楽学部器楽学科オルガン専攻及び同大学院修了。第29 回白川イタリアオルガン音楽アカデミーにて白川賞受賞。現在、日本基督教団甲府中央教会オルガニスト、カトリック田園調布教会オルガニスト、フェリス音楽教室オルガン科講師。	第10期 岡本 玲子 (おかもと れいこ) 武蔵野音楽大学大学院、フェリス女学院大学ディプロマコース修了。ボストンのアンドーヴァー・クライストチャーチにてアシスタント・オルガニスト、オールド・ウエスト教会にてオルガニストを務める。現在、市川聖マリヤ教会オルガニスト。	第11期 龍田 優美子 (たつた ゆみこ) 東京藝術大学にて学士号・修士号を取得。ドイツ政府奨学生(DAAD)としてシュトゥットガルト演劇音楽大学へ留学。インディアナ大学ジャズ音楽院にて女性として初の博士号取得。平成 29 年度文化庁新進芸術家海外派遣員・日米交換芸術家。現在、活水女子大学専任講師。活水女子大学学院オルガニスト。
第12期 富田 真希 (とみた まき) 神戸松蔭女子学院大学教会音楽コース修了後、東京藝術大学卒業、同大学院修了。2011 年フランス・ドイツ・ルクセンブルクの国境なき国際オルガンコンクール入賞。現在、煥乎堂ヤマハ音楽教室オルガン講師、日本基督教団桜新町教会オルガニスト。	第13期 上平 未奈 (うえひら みな) 都立芸術高等学校音楽科ピアノ専攻卒業。フェリス女学院大学音楽学部オルガン科卒業。2008 年、白川イタリアオルガン音楽アカデミーにてゲラルデスキ賞受賞、2009 年、ウィレム・ヘルマン国際オルガンコンクール第3位。現在、北星学園大学オルガニスト。	第14期 大山 智子 (おおやま ともこ) 甲南女子大学文学部、相愛大学オルガン専攻及び音楽専攻科修了。ドイツ政府給費留学生として DAAD 奨学金を得て、ドイツ国立シュトゥットガルト芸術大学オルガン科及び古楽科にてディプロムと修士号を取得。

第15期 石川=マンジョル 優歌 (いしかわ=マンジョル ゆか) 東京藝術大学オルガン科卒業、同大学院修士課程修了。フランス・トゥールーズ音楽院オルガン科Perfectionnement課程修了。2018年ピエール・ド・マンシクール国際オルガンコンクールセミファイナリスト。2022年8月までトゥールーズにてクロワ・ドロード教会主任オルガニスト、音楽学校「ア・テンポ」講師。	第16期 澤 菜摘 (さわ なつみ) 洗足学園音楽大学オルガン専攻首席卒業、同大学専攻科卒業。2018年からフランスのリヨン国立高等音楽院でF. エスピナス、L. シュルンベルガー両氏に師事。近年、即興演奏家としても活動を広げている。2022年、同音楽院修士課程に進学。	第17期 山司 恵莉子 (やまじ えりこ) 東京藝術大学オルガン専攻卒業。同大学院修士課程修了。大学院アカデミア音楽賞受賞。大学院在学中にトゥールーズ音楽院に留学し、オルガン科、チェンバロ科(DEM取得)、古楽科を修了。現在、東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程在学中、同大学院ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント。日本基督教団仙台東一丁町教会オルガニスト。東北学院オルガニスト。
第18期 三上 郁代 (みかみ いくよ) 東京藝術大学オルガン専攻卒業、同大学院修士課程修了。渡仏しトゥールーズ及びカン地方音楽院で学びオルガン、チェンバロ、通奏低音のディプロマ取得。M. タリヴェルディエフ国際オルガンコンクールにて、第一位とタリヴェルディエフ作品最優秀演奏特別賞を同時受賞。A. マルシャル国際オルガンコンクール優勝。	第18期 東方 理紗 (とうほう りさ) 東京藝術大学オルガン専攻卒業。同大学院修了。安宅賞、宮田亮平奨学金、アカンサス音楽賞受賞。2022年マリア・ホファー国際オルガンコンクール第2位。2023年メンデルスゾーンコンクール(ベルリン)オルガン部門第3位、第9回武蔵野市国際オルガンコンクール第2位。明治安田 QOL 文化財団 海外音楽研修生としてワグネル音楽大学に留学、国家演奏家資格過程在学。	第19期 阿部 翠 (あべ みどり) 東京藝術大学音楽学部楽理科、及びオルガン科卒。同大学院オルガン専攻修士課程修了。2018年より2年間、パリ地方音楽院に留学。現在、カトリック市川教会、碑文谷教会、田園調布教会オルガニスト。明治学院オルガニスト。
第19期 中澤 未帆 (なかざわ みほ) 洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコースを経てオルガンコース卒業。東京藝術大学大学院オルガン専攻修士課程修了。またスペイン、フランス、日本国内でのアカデミー、マスタークラスで研鑽を積む。第1回「長崎で教会音楽を」オルガンオーディションにて審査員賞を受賞。桜美林中学校・高等学校オルガニスト。		

「現在活動中」第20期生からのメッセージ

趙 三川 (ちゃお さんちゅあん)

オルガン管理やコンサート運営を通して、優れた演奏家に接する機会と多くの学びを得ることができます。中国からの留学生である私に貴重な機会をいただけたことを、大変光栄に思います。近藤先生とホールスタッフの皆さんの温かいご指導とご支援をいただきながら活動しています。プログラムでの様々な研修を経て、自身の成長を実感するとともに、中国のオルガンの発展や、日本との交流の可能性についても深く考える機会を得ました。



Photo:藤本史昭

ー プロフィール ー

中国四川省出身。2020年聖徳大学大学院音楽文化研究科博士前期課程入学。2022年同大学院修士号取得。2025年3月同大学院博士後期課程修了予定。日本オルガニスト協会学生会員、日本電子キーボード音楽学会学生会員。

中川 美香 (なかがわ みか)

このプログラムでは、運営研修、MC 研修、オルガン構造研修などさまざまな研修を通して、オルガニストにとって必要なスキルや知識を身につけることができます。ホールオルガニストの近藤先生の月1回のレッスンも魅力的です。横浜みなとみらいホールスタッフの方と一緒にコンサートのお手伝いをしたり、“ルーシー”のメンテナンスをしたり、実践から学ぶことも多く、充実した一年を過ごしています。



Photo:藤本史昭

ー プロフィール ー

聖心女子大学を経てフェリス女学院大学音楽学部演奏学科オルガン専攻卒業。同大学院音楽研究科演奏専攻修士課程を修了、現在研究生として在籍。カトリック山手教会オルガニスト。カトリック田園調布教会オルガニスト。

横浜みなとみらいホール

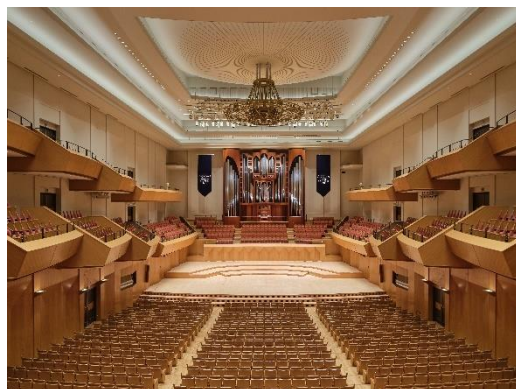
ホール概要

横浜みなとみらいホールは1998年の開館以来、横浜市民はもちろんのこと、首都圏・全国各地のお客さまにご来場いただいております。また、国内外のアーティストからも日本を代表するコンサートホールの一つとして親しまれています。創造都市、横浜・みなとみらいのコンサートホールとして、新しい音楽を発信し続けると共に、皆さまに愛されるホールを目指していきます。

施設概要

<大ホール>

客 席 囲み型シューボックス型 [残響時間 2.1 秒 (満席時)]
面 積 1944m² (縦 54m、横 35m、高さ 20m)
客席数 2,020 席 他に車椅子スペース 14 席



<小ホール>

客 席 シューボックス型 [残響時間 1.6 秒 (満席時)]
面 積 425m² (縦 23m、横 17m、高さ 11.4m)
客席数 440 席 他に車椅子スペース 2 席

<その他>

リハーサル室 212m²
レセプションルーム 176m²
音楽練習室 6室 23m²~39m²

名 称	横浜みなとみらいホール
所 在 地	〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 2-3-6
竣 工	1997 年 6 月
開 館	1998 年 2 月 1 日 (小ホール) 1998 年 5 月 31 日 (大ホール)
指定管理者	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団



Photo:平舘平

パイプオルガン“Lucy(ルーシー)” 概要



大ホール舞台正面に設置されているパイプオルガンは、アメリカの C. B. フィスク社製。ホンジュラス・マホガニー製のケースには、横浜にちなんだカモメの彫刻が施されています。輝くような明るい音色にふさわしく、「光」を意味するラテン語“lux”に由来する“ルーシー”という愛称で親しまれる、横浜みなとみらいホールのシンボルです。この楽器は、現代のコンサートホールにおけるオルガンの理想を追求して設計されているため、バッハ以前の時代から現代に至る多種多様なオルガン曲を、それぞれにふさわしい音色で演奏することができます。また、建設計画のごく初期の段階からオルガンを響かせることに配慮して建築設計が進められてきただけに、ホール全体が一つの楽器のように共鳴し、客席ではあたかもオルガンの音色に包まれているように感じられます。



Photo:平舘平

パイプは全部で 4,632 本。正面に見えているパイプのほか、奥行き 3.6m の 4 層になった内部に、材質も形も大きさも様々なパイプがびっしり並んでいます。木のパイプはポプラ材、金属のパイプは鉛と錫(すず)の合金です。音色を選ぶストップは62。その他にも実物が組み込まれている「チェレスタ」や、鈴を組み合わせた「ツィンベルシュテルン」、鳥の鳴き声に似た「ナイチンゲール」といった音色も備わっています。また、音色の組み合わせ(レジストレーション)を記憶するコンピュータのメモリーが内蔵されています。

- ◇外形寸法 高さ 11.22m×幅 12m×奥行き 3.6m
- ◇パイプ本数 4,632 本
- ◇ストップ数 62 ストップ+チェレスタ、ナイチンゲール、ツィンベルシュテルン
- ◇鍵盤数 第1～第3手鍵盤:各 61 鍵、ペダル:32 鍵
- ◇調律法 平均律

C. B. フィスク社

アメリカにおける現代オルガン建造のパイオニア。1961年、チャールズ・ブレントン・フィスクによって、ボストン近郊のグロースターで設立された。全米各地の教会や音楽大学、コンサートホールは元より、国外でもスイス、日本で優れた実績を持つ。

横浜みなとみらいホールのオルガン Op.110 は、第3代社長スティーヴン・ディーク氏を中心としたチームの手で1991年に設計が開始され、ホールに設置した後1年あまりに及ぶ整音作業を含め、7年の歳月を経て完成した。